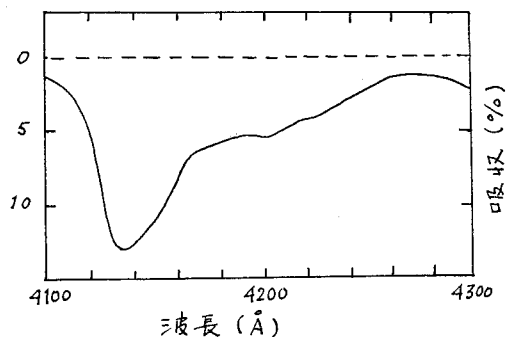


◇ 9月の天文暦 ◇

日時	記	事
7 20	火星合	
22	白露 (太陽黄経 165°)	
8 2	朔	
13 19	月 最遠	
16 4	上弦	
20 5	水星外合	
23 8	秋分 (太陽黄経 180°)	
13	望	
25 16	月 最近	
30 4	下弦	



He分子によるといわれている Grw+70° 8247 の吸収帯

言いたい放題・言いたい放題・言いたい放題

長生きの秘訣

Grw+70°8247 とかいう白色わい星の大気中に、ヘリウム分子 He_2 があるらしいと聞いた。私が中学時代からおそわってきたところでは、He 原子はほかの原子とくっついて分子を作ることはないはずだ。早速化学教室へ出かけて行って、He は分子を作るのですかと聞いたら、1原子分子ですという至極もったもな答だった。別の先生に聞くと、そんなものがあるとすればよほど低温でしょうな、という。いや星の大気ですから大分熱いんです。多分1万度以上です。へえそんなに熱いんですか。

こんなやりとりをしていても仕方がないから、少し文献を調べてみたら、からくりが分った。2個の He 原子が、両方もエネルギーの一番低い基底状態にいたのでは、決して He 分子はできない。うんと高温になって、励起した He 原子が相当数あると、これが基底状態の原子とくっついて分子ができる。実際このような分子は、実験室で作ることができ、そのスペクトルは1930年代か

らかなりくわしく調べられていた。あびびっくりした。

まったく、天文の世界では何かがび出してきるかかわったものではない。そのことが、私のような素人をこの分野にひきつけてはなさない。こういう話を、私よりもっと素人の化学や生物の先生にして、煙にまくのは大変愉快なことだ。どうです。面白いでしょう天文は。こんな面白いことを専門にやる学科がうちの理学部にもあってしかるべきだと思いませんか。来年あたりは、宇宙物理学の新設を概算要求にのせたいと思っているので、ひとつその節はよろしく。どうも、おれは学問よりセールスでもやった方が成功したかな、などと思ながらこんな話をして歩いている。

いわゆる地方大学は、みんなリトル東大をめざすのではなく、特色をそれぞれ出すべきだというのが私の年来の持論。田中首相も集中から分散へ政策の転換をすとおっしゃった。遠くない将来、天文関係の学科を持ち、そこへ出かけて行っては、またぞろ面白そうな話の種を仕入れて、みんなを煙にまく。こういう優雅な生活をしたら長生きするだろうな。

(茨城大学理学部物理学教室 浜田哲夫)

